が其苦しみを脅めるよりも幸い事であつた、口に小作人保護農民の向上を唱へながら小作人農民の餘剰勞力に寄食してゐるのは是も憐むべき矛盾である、私は此の矛盾の爲めに長い間苦しめられた、此の苦しみを脱するには自分の主義を捨てるかさうした境遇を破壊するかの二途あるのみである、私は躊躇なく後者の途を擇んだのだ、幸にして老父は私の此の擧に頗る乘氣になつて呉れた

斯うして土地は小作人に分配譲渡する事となつたが、然らばそれは如何なる方法によるべきか、助教授の談は尙續く

而し乍ら意々分配するとしても考なければならないのは其の方法である、たゞ無條件に分配する事は却つて弊害を伴ふのは明らかな處である、目下老父と其の方法などに付いては相談中であるが多分二十ケ年位の年賦で譲渡す事になるであらう、それは現在の小作料に一割か一割半位を増加してもよし又、低利資金などを借りて入れる方法も考へてゐる、トルストイの『復活』の中に主人公ネフリウドフ公爵が自分の所有地を分配する事を小作人に言ひ渡した時容易に信じられなかつたといふが、私も先日此の計畫を小作人に言ひ出した時は容易に信じて呉れなかつた、私の家の小作料は他のよりも少い、それに一割二割増した處で僅かなものである、二十ケ年の後それが完全に自分の所有になるといふ事は餘りに虫が好すぎる事と考へたらしい、數字などを示してやつと納得させたがこれを見ても如何に農民が社會に虐げられてゐるかゞ首肯せられる

斯う話つた伊藤助教授の談は自らにして黙を閉じてゐた、氏の談は更に氏が大學を卒業して歸郷した時の事に移る

私が大學を出た時小作人はみんな喜んでお祝に來て呉れた、私は其人々に言つた『私がこうして卒業して大學を出たのはみんな諸君の賜物だ、私はこの學問を決して自分一已人の爲には用ふる事は出來ない、必ず諸君の爲に用ふる日があるであらう』と言つた、すると祝に來て呉れた人々は皆涙を流して喜んだ、温情主義は自分の爲の温情主義では駄目である、利他の觀念から出發した温情主義こそ温情主義だ

卒業の時の氏の此の言葉が此の方面に實現し斯くまで早く實行されるとは小作人は勿論伊藤助教授自身としても寧ろ意外であろう。

北九州の官憲紛擾を實行すべく

坑夫組合と同志會が提携して近く活動せん

大阪では全國勞働團體の大會が開かれ北九州の官憲が勞働運動者に加ふる壓迫を概してゐるが

北九州の二大勞働團體

とも云ふべき同志會と筑豐坑夫組合とは從來反目し同志會が緩慢的であると云ふ理由で勞友會の少數とも云ふべき坑夫組合では彼に餘り好感を有せず製鐵所の同盟罷工當時の如きは互に相反目し同志會が御用團體と呼んでゐた其後直に北九州に於て第一回官憲紛擾演說會を同盟する事になつてゐる際に至り遂に横斷組合は互に提携して組合の擴張維持に努むべきであると云ふ理由から同志會との提携說を云爲するに至り次第に具體化して今度の全國大會が開催さるゝ間際に

提携が

成立したかゝる折柄今回愈々計的に金棒で兩團體が彈されたので鬼に金棒で兩團體が此決戰を管行するに當つては全國の勞働團體が後援する筈である尙坑夫組合側では今度の大會終了後直に北九州に於て第一回官憲紛擾演說會を同盟する事になつてゐる

所側に好意を有する組伍長の或者は組伍長協同研究會の名の下に賛成者を叫合して純横斷組合を組織して

分離し

て以來同志會では漸次横斷的色彩濃厚となり最近ゼノア會議出席勞働代表者選擧に際し殆なくも同志會と協同研究會とは製鐵所同盟罷工當時に於て勞友會對同志會の如く相反目し互に海ついてゐた一方坑夫組合では漸次勢力を得て一般より認めらる

三菱職工の懷合

『勤休制で却て嫌い

『三菱長崎造船所の休勤制度實施に關して岩崎職工課長は語る

既に明治四十一年以來實施した工場もある位であるけれども長崎の環境が未だ之を許すか否かに就ては隨分惱まされた事であつた當造船所では四月間になるが想像以上の好成績を示してゐる事は何と云つても組織の新しい殊に該制度實施に連つて面白い現象は固より全部ではないが木工の如きは一週間の休業は物足らぬから三週間呉れろと要求してゐる彼等の要求する原因は休にて日給の六割即ち約一圓位を三菱から貰ひ掃底してゐる大工の手間稼ぎをすると云ふと少くとも一日二圓位は貰はれるので非常に愼中に合がよくなるからである又其他運搬人夫の如きも相當市内に需用があるから此休業制度は概して好結果を收めつゝある之見て差支ないと不安がる職工も頗分あつたけれども各工場長から汝職工も何途はでは感じてないからと云ふものは不安な空氣も一掃されて職工も會社側の誠意を十分解して呉れて重荷を卸したやうな氣持である

製鐵所從業員の犧牲が年三萬人

治療費が十五萬圓に上る

今日は不景氣で減少

製鐵工業從業員の險惡である從業員の負傷は社會問題として各方面で研究され政府でも最近製鐵業保險法案中に右の一項を加へて居るが八幡製鐵所の如き大工場の負傷者は一體何んなものかと調べて見ると、驚く勿れ昨年一ケ年の負傷者は二萬二千人を算して居る中職工一萬八千人夫が四千人である最も右の數字に現はれた負傷者は何れも所謂重傷の部に屬するもので輕傷のかを數へると數限りのない程である而して前に示した昨年中の二萬二千人と云ふのは負傷者數の減選した當時の事で好景氣時には三萬人を超えたと云ふ而して之を延人員にすると一日三百人の怪我人があつた譯だ不景氣風が

業勞働者の負傷者

も減じて了つたと云へは可笑しなものだが實際本年六月以前迄は一日百五十人平均の負傷者があつたが六月以降からズツと減じて七八十名に漸減し目下では四五十人に下つて居る怪我人が減じた原因は勿論勞働者が少くなつた事が最大の原因であらうが不景氣と共に工業勞働者が異常の注意を拂つて働くーつの現象たと製鐵所病院では言つて居る是等多數の負傷者に對する治療費は見ると昨年の如きは八百圓餘で氣の好い時代には十五萬圓を費して居たのだ右に關し一職工は附け加へて云ふ……しかし老へて御覽なさい政府から一ケ間十萬圓近くの金を治療費として投げ出されたとは云へ怪我をした當人は負傷と云ふ名の下に腕を一本打ち切られ眼玉を抉られ其人生生の生活の保障を失ふのですからね夫れでも吾々の方は官營工場に居るから幸ひです之が若し私營の工場であつたらモツト〳〵不幸の眼に遭はねばならぬでせうよ